

# ・G20サミット及びエネルギー大臣・環境大臣会合への 提言

## サイエンス20

### サイエンス20 JAPAN 2019

3月6日  
(東京都港区・日本学術会議で開催)

#### 共同声明採択

テーマ  
海洋生態系への脅威と海洋環境の保全  
—特に**気候変動**及び  
**海洋プラスチックごみ**について—



## 首脳会合

### G20 大阪サミット 2019

6月28日～29日(大阪で開催)

<主な議題>  
国際保健、**気候変動**問題、  
**海洋プラスチックごみ**問題等

### エネルギー大臣・環境大臣会合

### 持続可能な成長のための エネルギー転換と 地球環境に関する関係閣僚会合

6月15日～16日  
(長野県軽井沢町で開催)

<主な議題>  
**気候変動**問題、  
**海洋プラスチックごみ**等

7

## ・サイエンス20 共同声明の手交

共同声明は、3月6日の採択後、総理官邸において、山極会長から安倍総理に手交した。また、3月8日に、環境大臣室において、原田環境大臣に手交した。



安倍内閣総理大臣への手交の様子



原田環境大臣への手交の様子



# サイエンス20のメディアでの報道について

- ・「プラゴミなど海洋汚染の対策提言、G20に向け＝科学アカデミー」(ロイター、3月6日)
- ・「使い捨てプラ、使用削減を 海洋保全でG20科学機関」(共同通信、3月6日)
- ・「共同声明を受け取る安倍首相」(時事通信、3月6日)
- ・「海洋プラごみをG20で研究協力 学術機関が共同声明」(東京新聞、3月7日)
- ・「ごみ対策 早急に S20、6項目の共同声明」(毎日新聞、3月7日)
- ・「首相、海洋プラ解決に注力」(産経新聞、3月7日)
- ・「海洋ごみ研究強化 首相へ提言」(読売新聞、3月7日)
- ・「脱プラ日本も本格化」(読売新聞、3月15日)



## (掲載記事の一例)

### 「ごみ対策 早急に」 S20、6項目の共同声明

【S20】を聞き、深層系への脅威「海洋プラスチックごみ」と気候変動対策を求め、共同声明を採択した。都市や地域単位での個別経済の実現など6項目が、今年6月1日に大阪府で開かれるG20首脳会議で採択される。

共同声明は「海洋生活者」が、国際協力による

早急な対策を促した。海に流出したプラスチックは、微細な破片となり、海洋生物や人間の健康に悪影響を及ぼす。また、海洋プラスチックごみの排出は、気候変動の原因となる温室効果ガスの排出を増加させる。S20は、G20首脳会議の採択を目標として、本日の共同声明を採択する。

共同声明は、海洋生活者

採択する。共同声明は、海洋生活者

採択する。共同声明は、海洋生活者

### 首相、海洋プラ解決に注力

安倍首相は6日、20カ国・地域(G20)の科学者で首脳で面会し、6日に大阪府で開くG20首脳会議で採択となる海洋プラスチックごみの削減などに関する提言を受け取った。

首相は「G20議長国として地球規模課題の解決に向け、リーダーシップを発揮して」と決意を語った。

海洋プラスチックごみをめぐっては、死んだ動物の体内から骨がみつかるなど生態系への悪影響が懸念されている。首相は「海洋

決へ大々進めば是新的なインベションが必要だ。世界の未知を結集しなければならぬ」と強調した。

提言は6日、科学者が共同声明として採択した。

海洋プラスチックの規制・加工・再利用システムの向上や代替資源材の研究開発、科学的根拠に基づいた目標設定を通じて適正な廃棄物管理が確保され、世界中の科学者がアクセス可能なデータ保護装置と管理システムの確立を訴えた。

H31.3.7(木) 新聞

#### ◆海洋ごみ研究強化 首相へ提言

6月に大阪で開催される主要20カ国・地域(G20)首脳会議に合わせ、日本学術会議などG20参加各国の科学者組織「サイエンス20(S20)」が6日、海洋プラスチックなどの海洋汚染対策の研究強化を求める共同声明を発表した。同会議の山本首相一會長らが安倍首相に声明文を手渡した。

声明では、海洋プラスチックを海洋の温暖化や酸性化に次ぐ「新たな脅威」と位置づけ、調査・研究の強化を求めた。

H31.3.7(木) 読売新聞



H31.3.7(木) 毎日新聞

## ②アジア学術会議の運営・開催

- 日本学術会議が事務局を務め(事務局長は吉野博連 携会員)、18カ国・地域の32機関が加盟。毎年度、各国持ち回りで会議を開催
- 2018年は、11年ぶりに日本が第18回会合を開催し(12月5日～7日)、「Role of Science for Society: Strategies towards SDGs in Asia(社会のための科学:アジアにおけるSDGsの達成に向けた戦略)」のテーマの下、約200名の参加を得た。



開会式で挨拶をする山極会長



11

- 5つの基調講演が行われた。
  - Leena Srivastava (FE Advisory Committee共同議長)
  - 武内和彦 (日本学術会議副会長)
  - 二宮雅也 (日本経団連企業行動・CSR委員長／損害保険ジャパン日本興亜株式会社社会長)
  - Om Romny (Institute of Technology of Cambodia学長)
  - 岸輝雄 (外務大臣科学技術顧問)
- スリランカのNational Science and Technology Commission (NASTEC)が新規に加盟した。



第18回アジア学術会議  
参加者集合写真



12



- 会議の議論を踏まえた共同宣言を取りまとめた。

【共同宣言の骨子】

- (1) 全ての人々が平等に機会を得て活躍できる社会の実現
- (2) 強靱なインフラ基盤を持つ持続可能な都市の形成
- (3) 持続可能な天然資源の保全と利用
- (4) アジアにおける健康・長寿社会の実現
- (5) 社会のニーズに貢献するアジアの科学者コミュニティの強化



- 新SCA会長は中国(CAST)のDr. Wang Xi 副会長に決定した(2020年まで)。
- 次回第19回アジア学術会議は、ミャンマー・ネピドーのグランドアマラホテルにて、Research and Innovation for Sustainable Development in Asia をテーマに2019年12月3日～5日に開催予定。

ミャンマー・低湿地帯の田園風景



次回開催国であるミャンマーへSCA旗を贈呈



### ③各国アカデミーとの連携・交流(1)

- Gサイエンス学術会議(2019)への対応

- フランス科学アカデミーが主催・取りまとめ
- 国際活動副会長及び3人の専門家が出席(2019年3月/フランス・パリ)

テーマ1 : Science and Trust(科学と信頼)

テーマ2 : Artificial intelligence and society(人工知能と社会)

テーマ3 : Citizen science at the time of the Internet(インターネット時代のシチズンサイエンス)

- 共同声明のG7政府への提言

- 近日中の声明手交を検討中



### ④各国アカデミーとの連携・交流(2)

- 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)第15回年次総会中、The 11th Academy of Science President's Meeting

(2018年10月8日)を主催

- テーマ: Threats on Marine Ecosystems and Conservation of Marine Environment

- 山極会長、武内副会長が出席し、サイエンス20のプレミーティングとして開催

- 18カ国・1地域のアカデミーが参加



The 11<sup>th</sup> Academy of Science President's Meetingの様子



## ⑤加入国際学術団体等への貢献（1）

- IAP (InterAcademy Partnership)の活動
  - IAP for Scienceへの参画
    - ・理事として参画(2015年～2018年)
  - IAP for Policy(旧IAP for Research)への参画
    - ・理事として参画(2017年～2020年)
  - 2018年9月 IAP 合同総会に  
国際活動担当副会長が出席  
(スイス・ベルン)
  - 2019年4月 IAP理事会に  
国際活動担当副会長が  
出席(韓国・松島)



17



## ⑥加入国際学術団体等への貢献（2）

- 国際学術会議(ISC)への参画
  - 2018年7月 ICSU及びISSC  
が正式に統合
  - 植松光夫連携会員が  
ISCアジア太平洋地域委員  
会委員長として、2018年  
10月ISC理事会へ出席
  - ISC傘下の多数のユニオンの運営への日本学術会議  
会員の参画



ISC設立総会の様子

18



## ⑦フューチャー・アースの国際的展開

- 日本学術会議は5カ国の各種機関からなる国際本部事務局の一翼である日本ハブを実質的に担う構成員内での推進役として機能
  - 2018年11月、フィリピン国内委員会発足式(マニラ)に春日文子FE日本ハブ事務局長が出席
  - 2019年3月「レビューパネル」に福士謙介連携会員が選出
  - 2019年4月「諮問委員会及び評議会」へ国際活動副会長及び春日FE日本ハブ事務局長が出席(ストックホルム)



19



## ⑧代表派遣

- 平成30年度の代表派遣実施計画では、31件、延べ42名を派遣
- 平成31年度の代表派遣実施計画を策定し、45件、延べ55名の派遣を予定
- 若手アカデミー会員の派遣
  - 2019年5月 IAP傘下のGlobal Young Academy 総会へ若手アカデミー会員3名を派遣予定
  - 新福洋子特任連携会員(若手アカデミー副代表)がGYAの執行役員として運営に参画



20





## ⑨国際学会議の共同主催及び後援

- 共同主催国際会議の受賞
  - 第23回世界神経学会議(2017年9月16日～21日)が、日本政府観光局より平成30年度国際会議誘致・開催貢献賞を受賞
- 共同主催国際会議の主催
  - 2018年IEEEシステム・マン・サイバネティクス国際会議(10月7日～10日@宮崎)
- 国際会議の後援
  - 政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク第3回会合(2018年11月6日～7日)
  - IEEE WIE International Leadership Summit 2018 Tokyo(2018年11月9日10日) ほか3件

